

会議録

会議の名称	加東市男女共同参画プラン策定委員会第3回会議
開催日時	令和5年3月2日 10:00～11:50
開催場所	加東市役所501会議室
委員長の氏名 (中村 和子)	
出席及び欠席委員の氏名	
<出席委員>・中村 和子・車井 浩子・片岡 静代・藤井 秀明・小泉 由香・藤川 ひろみ ・藤原 良二・庭瀬 真由美	
<欠席委員>・西山 三希夫 ・茂木 美知子 ・梶原 真理 ・小畠 涼子 ・植田 尚也	
出席した事務局職員の氏名及びその職名	
・市民協働部人権協働課長 西山 太 ・副課長 小坂 淳子 ・主査 金井 誠	
議題、会議結果、会議の経過及び資料名	
1 議題	
(1) 市民意識調査の結果について	
(2) 第4次男女共同参画プランの骨子(案)について	
2 会議の経過	
・委員長あいさつ	
・議事録署名人は、小泉由香氏、藤原良二氏に依頼	
3 議事	
(1) 市民意識調査の結果について	
【調査の概要】	
事務局より、調査および調査結果の概要を報告。	
【調査結果の概要】	
1 男女共同参画の現状	
2 家庭生活における男女共同参画	
3 子育てにおける男女共同参画	
4 労働における男女平等の推進	
5 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進	
6 地域生活における男女共同参画	
7 男女共同参画社会づくりのための行政の役割	
●委員長 みなさんのご意見を伺いたいが、「いきなり意見を」と言われても出しにくいと思うので、3人ずつのグループで10分ほど話し合いをしていただきたい。	
(委員間で10分間の意見交換)	

- 委員 長 では意見ををお願いします。

- 委 員 経年（5年間の）比較で見ると全体的に好転している事は間違いなく、良い傾向で、共同参画の意識が浸透していることは嬉しい事です。その一方で、世代が変わっている事を考えれば、市民の意識はもっと変わっても良いのではとも感じる。両親と一緒に家事・育児に関わる流れは良い事で、父親、母親と一緒に子どもを育て、学校もそれを応援できるという環境は、子どもにとって間違いなく望ましいことなので、そのような意識が広がっていることは有り難く思うし、さらに進んでいくとよいと思う。

- 委員 長 子育てが女性の仕事だという意識は薄れてきているのは確かで、最近では男子学生の9割が家事育児と一緒にしたいと考えているという話も聞く、確実に意識は変わってきていると思う。

- 委 員 若い世代の意識がどんどん変わって柔軟になっていっているの、そういう意識が繋がるような「場」があると良いのではないかと思う。一人が思っているだけでは社会が変わらないと感じている。

- 委員 長 それぞれの思いが見えないと広がらないので、人や情報が繋がる場所をつくれたら良いと思う。

- 委 員 目に見えるものがないと変わりにくいので、意識などを共有する「場」が大事。男女共同参画を推進するための課題だと思う。男性トイレにベビーキープやおむつ台あること等は分かり易い、推進事例になり得るのではないかと思う。

- 委員 長 その通りだと思う、商業施設では整備が進んでいるが、公共施設や民間施設でも男子側に（ベビーキープやおむつ台が付いた）多目的トイレ等が広がると良いと思う。そういう目に見える対応が有効。

- 委 員 男女の役割分担意識が改善していることは良いと思うが、議会への女性登用や意思決定への女性の関与、女性リーダーの育成などの成果はまだまだ少ないと感じる。また、男女共同参画センターを設置し、女性の相談窓口についてはさらに充実が必要ではないか。

- 委員 長 「なないろ」というグループができたが活動拠点が無い。県の施設（うれしの生活創造プラザ）に登録して活動している状況なので、加東市でもセンターなどの拠点を持ってもらえると活動しやすい。センターがあると、「見える化」ができる。
 加東市議会女性議員が2人→4人（25%）になったので改善方向ではあると思う、他市町では0人という所もあるので、現在の状況としては県内でも良い方ではないか。小野市で4月に市議会選挙が行われる。さらに女性議員が増えると良いと思う。

- 委 員 育児休業のルールがあったとしても、大手はともかく中小企業では現実的には休暇を取りにくい実態が多いように感じる。育児休業が会社にとってメリットとなる取組や、条例による罰則などの強い誘因をつくらないと企業や経営者の意識を変えることができないのかもしれない。子ども世代の意識は確実に変わってきているので、諦めずに言い続ける、議論を続けていく事が大事だと思う。

- 委員 長 男性の育児休業については、制度自体を経営者がご存じない実態があると思う。休暇の取り方や従業員の権利についてはもちろん、育児休業中の収入がなくなると思っている方もあるが、育児休業中は、8割の収入は保障される。企業が残り2割程度を補填すれば実質的に収入が減らない状態を作れる。そのため大企業では生き残りをかけた人材確保のために取組が進んでいる。また当事者は、「自分が育児休業を取ることで、まわりに迷惑をかける」という意識が強い。ある社会福祉法人では、ある社員が育休を取った時、その埋め合わせをする周囲の社員に対し手当を出すところもある。その職場では、入社する若い子の取り合いになっているという。大変良い取組だと感じた。男性が育児に関わることで、そこで得られたスキルが仕事に生きるという考え方もある。法制度も変わってきている、収入の問題と職場環境の改善が進めば、男性の育休取得を取り巻く環境は数年で大きく変わるのではないかと思っている。まずは市役所が率先して育休義務化を考えてはどうか。1週間や10日の休暇ではただ「大変だった」で終わってしまう、3週間の休暇であればスキルも身につく、子育てに関わったという達成感も違ってくる。育児に関しては、30代あたりを境に意識のギャップが大きくなるように思う。
- 委 員 学校では子育て特休という制度があり教員の利用も多い。
- 事 務 局 最近では育休を取る職員もでてきていると思うが、具体的な実態はわからない。
- 事 務 局 加東市では、女性活躍推進法の特定雇用主行動計画の公表結果によると、令和2年度では対象5人で2人が取得したという実績がある。配偶者出産休暇を取得した例もあるが平均取得日数は1日となっている。
- 委 員 育休について主人に取得可能かを聞いたところ、制度はあるが、仕事が忙しく、代わる人がいないので取得は難しいという返答だった。若い世代の意識は変わってきている一方で、会社や上司等の意識が変わっていないため、育休取得がしやすい環境が実現していない。啓発もそうだが、行動を促す必要がある。企業トップなどに働きかけ動かざるを得ない状況を作る必要があると思う。
- 委 員 長 育休中の給与は会社が払うのではなく社会保険から支給される、会社としては浮いたお金で臨時職員を雇うなどの対策も考えられるはず。1人が1つの仕事をするのではなく、2人で2つの仕事をするように、チームで仕事を進めるよう仕事の仕方を考えていく必要がある。大企業では既に働き方が変わってきていると聞く。
- 委 員 市からは育休に関するいろいろな資料が来て、本人（夫）は制度を利用したい意向はあるが、会社側の意識や環境が変わっていないと実際には取得が難しい状況がある。
- 委 員 長 加東には全国的にも有名な「アスカカンパニー」がある、同社のような取組を広げられたらよいと思う。
- 委 員 長 計画の目標数値が今後協議されることになると思うが、男性の育休取得人数など身近なところでの具体的な目標が欲しい。また、この市民アンケートの回答年齢構成は、4割以上が60歳以上、50歳台も加えると6割を超えている事を踏まえ、年代別の観点を意識して意識調査の結果を見て計画を考えてほしい。

(2) 第4次男女共同参画プランの骨子(案)について

- 事務局 第4次男女共同参画プラン骨子(案)では、第3次プランを踏襲しつつ、社会情勢等を踏まえた修正を加えています。
基本理念については、性の多様性に配慮し「男女がお互いの人権を尊重し・・・」を「だれもお互いの人権を尊重し・・・」に変更することをご提案します。
そして、施策推進体制等の強化や庁内関係課との連携強化によって取組の着実な推進を図る目的で、基本目標として新たに「男女共同参画社会実現に向けた環境の整備」を追加しております。
また、基本目標2「あらゆる分野における男女共同参画」については、女性の地域活動への参加促進と、女性の視点を取り入れた防災対策を推進するため、基本課題を見直し、新たに「地域生活における男女共同参画の推進」を追加しております。
- 委員長 基本目標4について、「環境の整備」よりも「推進体制の整備」の方が良いと思う。県のプランでは、女性活躍、男性の家庭、地域への参加、ワーク・ライフ・バランスなどが柱となっているが、その他に「次世代への継承」という他県にはない内容が含まれており、優れたところだと考えているので、取り入れてもらえると良いと思う。
施策の基本的方向で止まっている計画ではダメ、それが各課・各担当の具体的な取組に繋がっていることが大事なところ。それがあつて推進体制の整備にも繋がるので、取組結果のチェックが機能するように体系図の右側をしっかりと精査し、毎年チェックを入れていってほしい。
- 委員の皆さんから、こんなことも入れて欲しいと言うことはありませんか。
- 委員 特に意見等なし

4 その他(第4次男女共同参画プラン策定日程について)

【令和5年度の日程(予定)】

令和5年6月下旬 施策の方向性
令和5年8月下旬 素案に関する審議
令和5年10月下旬 計画案に関する審議
令和5年11月下旬 計画案の最終確認
計4回の策定委員会委を予定

5 閉会

副委員長 閉会のあいさつ

令和 5年 3月 6日

委員長 中村 和子

署名人 小泉 由香

署名人 藤原 良二